



実習に必要な道具

- 用意するものの一例 (★は100円均一ショップで購入可能なもの)



① チリメンモンster入りのちりめんじゃこ

チリメンモンsterが多く混じったちりめんじゃこをさがしてみましよう (58ページを参照)。産地やとれた時期がわかるものが見つかったら、あとで名前を調べたり、まとめたりするときに便利です。

② とり皿・大 ★ …… 1個/人

チリメンモンster混じりのちりめんじゃこをとり分けのお皿です。チリメンモンsterには明るい色のものが多いので、濃い色のとり皿を使用するとよりさがしやすくなります。

③ とり皿・小 ★ …… 1個/人

見つけたチリメンモンsterをとり分けのお皿です。小さな紙皿や、学校ならシャーレでも代用できます。あらかじめ区分けがされたパレットをとり皿として使うことも可能です (59ページを参照)。

④ ピンセット ★ …… 1本/人

ちりめんじゃこをより分けたり、見つけたチリメンモンsterをつかんだりするのに使います。

指で閉じるときに力がかかるピンセットは、チリメンモンsterをつかむときの加減が難しくてすぐ疲れてしまうので、あまりおすすめできません。また、先端がとがっているものは、試料をつかみやすい反面、子どもが扱う際にケガするおそれがあるので注意が必要です。割り箸などでも代用できます。

⑤ ルーペ (虫めがね) ★ …… 1個/人

手持ちタイプが一般的ですが、卓上タイプも観察しやすいのでおすすめです。倍率は3倍程度で十分ですが、高倍率のものも数個あるとよいでしょう。

⑥ 木工用接着剤 ★ …… 1個/人あるいはグループ

カード等の成果物をつくる場合、見つけたチリメンモンsterを紙に貼りつけるのに使います。接着剤のノズルはできる限り細い方が使いやすいのですが、詰まりやすくなります。使うたびにノズルの状態を点検する方がよいでしょう。

⑦ 消しゴムつき鉛筆 ★ …… 1本/人

成果物に自分の名前や見つけたチリメンモンsterの種名を記入する際に使います。鉛筆削りも数個用意しておくといでしょう。

⑧ 袋 ★ …… 1枚/人

成果物や貼らなかったチリメンモンsterを持ち帰るのに使います。カードタイプの成果物なら、チャックつき袋が便利です。成果物に合ったサイズのものを選ぶ必要があります。

⑨ チリメンモンsterの同定用資料

チリメンモンsterの名前を調べる際に参考となる資料です。きしわだ自然資料館のホームページから、パンフレット形式の「チリメンモンsterがあくしゅうちょう」、「これがチリメンモンsterだ!」を無料でダウンロードできます (<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>)。

また大阪自然環境保全協会でも「チリモン図鑑パンフレット」を有償で配布しています (<http://chirimon.jp/>)。

● それ以外にあると便利なもの (★は 100 円均一ショップで購入可能なもの)

双眼実体顕微鏡

肉眼や虫めがねでは観察が難しいような、甲殻類の幼生や稚魚の細かい形態を観察することが可能です。価格はさまざまですが、右写真のような携帯用のものは持ち運びが簡単で、野外でも使えます。



**スマートフォン用
マクロレンズ★**

スマートフォンでチリメンモンスターの写真を撮影し、拡大して参加者に見せることができます。



図鑑類

大きな生態写真が掲載されているものがよいでしょう。参加者の年齢に合ったものを選ぶ必要があります(72～76 ページ参照)。



光源

実習場所が暗い場合は、卓上のスタンドライトを用意しておくといでしょう。USB 充電式の簡易な LED スタンドライトが持ち運びしやすく便利です。

**ミニちりとりと
ほうき★**

片付ける際、卓上に残ったちりめんじゃこを掃除するのに使います。



● 実習を行うにあたっての注意点



・実習用試料は食べないように！

実習用として市販されている試料は、食品品としてつくられていないので、ビニール、木材片などのゴミが含まれていることがあります。また、不特定多数の人が実習の際にさわると、衛生上の問題もあります。実習用試料は食べてはいけないということを、事前にしっかりと伝える必要があります。

・ピンセットの使い方

先端のとがったピンセットを使用するときは、ケガをしないよう、実習前にピンセットの危険性や正しい使い方を十分説明するようにしてください。

・アレルギー

チリメンモンスターの中には、甲殻類アレルギーの原因となるエビ・カニ類の幼生や、軟体類アレルギーの原因となるイカ・タコ類も含まれています。実習前には、参加者にアレルギーの有無を確認する方がよいでしょう。アレルギーのある参加者に対しては、ピンセットを使い、直接手でさわらないことや、実習後は手を洗うことなど十分注意を促すほか、必要に応じて手袋やマスクの着用など配慮が必要です。アレルギーの程度によっては控えた方がよいこともありますので、学校などで実習を行う際は、保護者の方に十分確認するようにしてください。

